

西宮市展 彫塑・立体部門 新進気鋭の作家達

貴志在介

— 貴志さんは西宮市展に長く出品いただいていますし、市展賞レビュール展2019で実施したインタビュールも記憶に新しいです。最近の作家活動はいかがですか？

— 今年は予定が立て辛い状況ですね！

— そうですよ！

— コロナウイルスのことで活動自粛になる数週間前には京都府が主催する京都府新鋭選抜展に出品しました。これまで扱ったことのない、コンクリートを素材にした作品を制作しました。

— コンクリートですか。貴志さんは使用する素材にかなり幅をもたれていますよね。以前、素材への固執はあまりないと言っておられました。そうですね。それよりもコンセプトというか、社会的背景を投影することを軸にしたいと考えてます。

— 令和元年の西宮市展審査員講評で「次世代の彫塑・立体としての価値を提示する作品。シャープな直線と足の曲線の対比が素晴らしい」と評

されましたが、貴志さんの作品はダイナミックであり、メッセージ性が強いのが特徴だと思います。ありがとうございます。やはりそういった点を見ていただけるのは嬉しいです。社会的背景と向き合った作品制作というのはスタンスとしてしっかり持っていたいですね。

— 他のご予定はどうですか？

— 9月頃から京都のギャラリーヒルゲートで彫刻の野外展示を数か月にわたって企画していただいています。— かなりの長丁場になりますね。作家活動をしていて特に嬉しいタイミング、苦しいタイミングがあればお聞かせください。

— 嬉しいタイミングは完成に近づいていく過程でしょうか。苦しいタイミングも制作している過程なので、この二つのタイミングは背中合わせですね。

— なるほど。今後の目標をお聞かせください。

— 今年はコロナウイルスの影響でたく

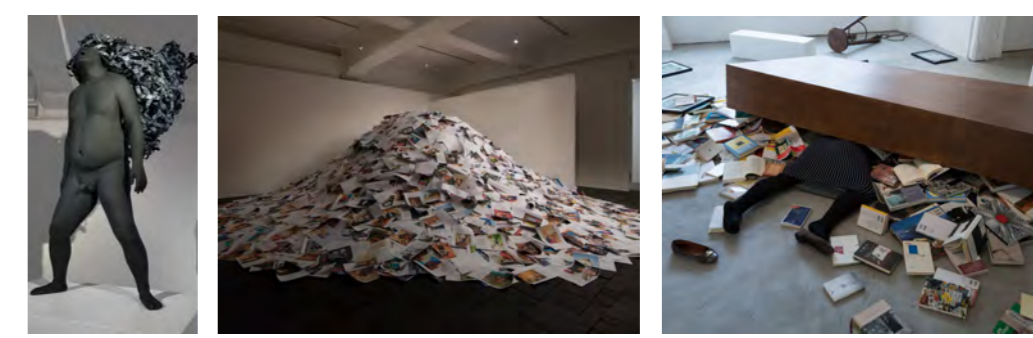


第69回 西宮市展賞(彫塑・立体部門)受賞作「踏の塔」

さんのイベントや展示が中止となりました。そんな中で自分がアートにとつて少しでも力になれたらと思いますし、また芸術仲間という話し合いながら、少しでもアートを通じてみなさんの力になりたいと思います。秋からは京都のギャラリーヒルゲートで野外展示の個展を行います。発表の機会が限られてしまうなか、精一杯やっていきたいと思っています。

— ありがとうございます。それでは最後に、西宮市展について、何かコメントをお願いします。

— 私は西宮で生まれ育ったわけではありませんが、ですが西宮は長年、市展へ出品させていただく中で、気づけばとても愛着のある街になっていました。この市展でお世話になったことに尽きます。そして、スタッフの皆さんの親切なご対応も西宮市展の良さです。昨年はレビュール展でも作品を展示できる機会を頂けたことに感謝しています。



arisuke kishi

第69回西宮市展(2019)
彫塑・立体部門 西宮市展賞受賞。インスタレーションを軸とし、多種多様な素材を使った、メッセージ性の高い作品を発信し続けている。京都府新鋭選抜展への参加等、今後の一層の活躍が期待されるアーティスト。



takeshi kubo

第68回西宮市展(2018)
彫塑・立体部門 西宮市展賞受賞。1996年から大理石を用いた彫刻を始め。日本国内だけでなく、ルーマニア・ポルトガル・インド等で積極的に現地制作活動を行う、大理石の質表現に定評のあるアーティスト。

<http://atelierbeaucoup.jimdo.com/>

— 最近はいかがですか？

— 少し石から距離を置いて木を用い、製材しながら木で囲まれた空間のギャラリーをつくっています。

— 意外です！クボさんの作品と言えば大理石のイメージが強いですがね。石の彫刻と制作の違いは大きいのですか？

— 石材はカーヴィング(硬い素材から削りだして彫刻をつくる技法)ですが、木で空間を作るとなると、ほぼモデリング(粘土といった素材を追加しながら彫刻をつくる技法)になるのでそこが全然違いますね。

— 真逆ですね。

— でも深いところではカーヴィングの思考につながっているような気がします。彫刻するようにつくっているのでイメージはあるけどその都度思いつきを試してみたりしています。材料と相談したりしながら作ってはやり直したりと臨機応変に！石を使うよりもっと柔軟に進めています。

— 「ギャラリーをつくる」というの

もなんとというかクボさんらしくて面白そうです。

— (笑) 完成すればその空間に大理石の自作作品を展示したり、お気に入りの作家さんの作品を展示したり！空間自体が作品という思考です。素敵な作品をつくる作家さんの作品を発表していただける空間をつくり、楽しみたいです。

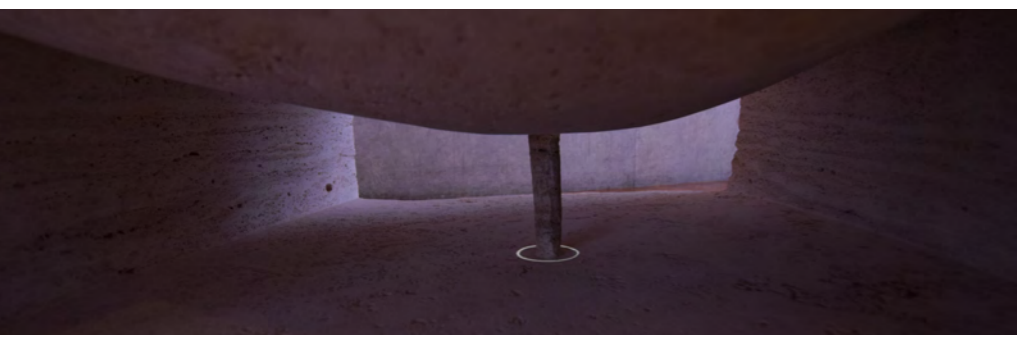
— もう石材での彫刻はやらないのですか？

— やりますよ。7月には石の制作に復帰して2週間くらいの滞在制作をドイツの森で行う予定ですが！

— コロナウイルスの影響？

— そう。もしかすると来年に延期になるかもしれませんが！新しい地で人々にふれあい、その環境を味わい、その地でとれる石での制作を楽しみにしています。

— 令和2年度は感染症流行防止のため西宮市展も中止になってしまいました。クボさんも長年西宮市展へご出品いただき、キャリアを積まれて



第68回 西宮市展賞(彫塑・立体部門)受賞作「リング」

ます。活動する中で特に嬉しい時、また逆に辛いのはどんな時ですか？

— そうですね！まず自分がイメージしたものが現れる喜びは大きいです。現れて、そこに新たな発見をみつけたときですね。苦しみは現れるまでの長い道のりというところでしょ！でも度々素敵な石の表情に出会い癒されるので結局は、喜びに繋がるものだと思います。何というか、作家活動は喜びと苦しみ表裏一体すぎるとさえ思います。

— 海外の現地制作はどうですか？

— 現地制作では色々な国を体験できるので喜ばしいです。観光だけでは味わえないものも、そこにはあるように思います。

— なるほど。今後の目標についてお聞かせください。

— 「大理石が好きで仕方がない、その魅力を作品に纏わせたい！」という彫刻家でありつつげられるように、そして世界の街の空間に素敵な作品が設置できるように進むことです。



— 最後に西宮市展へコメントをお願いします。

— 西宮市展の運営の仕方が素晴らしいので応募作品のレベルの高さにつながっているとおもいます。独自の方向性を期待しています！